

大学名 茨城大学

表題 URAから「UA」へー高度専門職人材を実装化したタスク主導型の大学運営への進化

裁量を持った業務を通じて大きく実った茨大型のURA・専門職機能

茨城大学では、2015年にURAを登用し、当初は主に外部資金の申請のサポートなどの研究支援の業務を担当していました。やがて、研究によって得た幅広い知識による視野の広さやニーズを敏感にキャッチする感覚、フットワークの軽さ、他の領域の専門職等と協力したプロジェクトのコーディネート力を発揮し、一定の裁量を持って業務に取り組めるようになりました。現在では、大学運営にとっては欠かせない、**企画・戦略と現場の実務とをつなぐ重要な役割**を果たしています。

URAを含む専門職を実装化した「UAオフィス」新設で新しい大学運営の形を

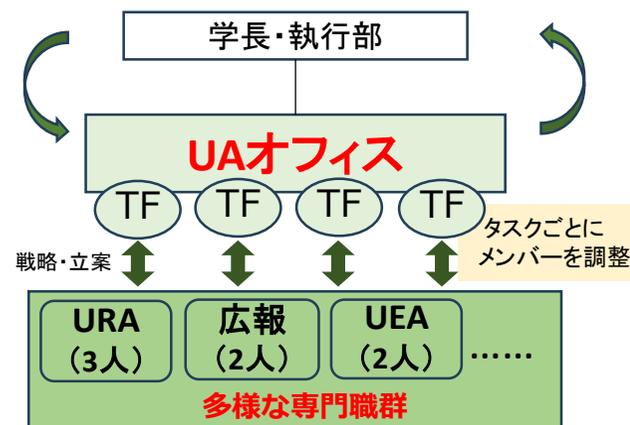
そこで、こうした**戦略にも関わるURAや専門職の人材を「UA」(University Administrator)と捉え直し、その機能を組織的に実装化して柔軟かつスピーディーな大学運営を進める**ことを企図して、今年(2024年)4月、従来の大学戦略・IR室を改組する形で、**UA(University Administration)オフィスを新たに立ち上げました**。理事・副学長(総括・財務・企画・評価)がUAオフィス長を務めています。

UAオフィスは、**URAや広報などの専門職が各専門性をベースにしつつも柔軟な形で兼務するネットワーク型組織**で、大学運営にとって重要なタスクごとに適宜メンバーを招集し、大学執行部とともに戦略の策定やプランニングを担います。いわば学内のシンクタンク集団のような存在で、学長や理事も「UA」のメンバーたちに直接助言を求めるなど、**大学運営において柔軟に利用できる知的・人的リソースの機能が強く発揮される**ようになりました。

対外的な情報発信も強化 高度専門人材を組織運営に活かすモデルに

茨城大学の現在の取組みは、URAのような**博士人材・専門職人材を組織マネジメントに実装化**したものとイえます。最近では、URAが一般書籍の監修を務めたり、広報の専門職とともに企業等学外機関の研修の講師や専門委員を務めたりするなど、**自身の経験やスキルを社会へ発信・共有**することにも取り組み、博士人材・専門職人材を活かした組織運営モデルを社会に広める役割も果たしています。

【参考URL】<https://www.ibaraki.ac.jp/news/2024/08/08012432.html>



本学のURA等の柔軟な動きやコーディネート力が大学運営の潤滑油になっています。高度専門人材を組織運営に活かすモデルを示していきたいです。



佐川泰弘UAオフィス長
(理事・副学長)

教員・職員との信頼関係を大事にしながら、戦略的な大型プロジェクトの立案も担うことができ、やりがいを感じています。今年は監修を担当した本も出ました。



梶野顕明URA